

令和5年度石見養護学校ランドデザイン評価指標

<令和5年度重点目標にかかる学校評価指標について>

石見養護学校 学校運営方針「みちるべ」より 令和5年度重点目標

①「伝え合う」(コミュニケーション力)

- *「めざす姿」のそれぞれの以下の部分を重点に取り組む。
 - めざす学校の姿 「保護者・地域と連携・協力して、教育効果を高め合う学校」
 - めざす児童生徒の姿「思考し、他者に伝え、共に学び合おうとする児童生徒」
 - めざす教職員の姿「組織の一員として共に考え、よりよくしようと行動する教師」
- *自立活動を中心に全教育活動、日々の学習の中で、伝えたい思いを育て伝える手段を豊かにする。
- *相手に「伝える」「伝わる」を確認しながら、相手からの発信を受けとめる体験活動を豊かにする。
- *人権意識を高め、寛容な心で多様な意見を受け止め、ともに考え伝え合い行動する教職員集団をめざす。

② 研修による専門性の向上

- *OJTにより学び合い高め合う教職員集団をめざす。
- *自己目標に自身の重点をおきたいテーマを掲げ、研修や実践につなげる。

今年度のキーワードは「発信!!」
 ・行事等の後はH掲載へ：掲載したことを教職員・保護者へ知らせる。
 ・保護者へ児童生徒の姿の伝えの具体化、見える化に努める。
 ・よりよい発信を考え、やってみる1年にしよう。

担当	重点目標	具体的方策(手立て)	評価方法・指標(規準) ・年度末の結果	中間自己評価	年度末評価アンケートより(%)					年度末自己評価	年度末評価 意見：○良い点 ◆改善点・改善策	
					中間評価アンケートより(%)							
					1	2	3	4	5			
① 伝え合う(コミュニケーション力)	小中学部	○自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりする力を養う。	・思いを伝えられたり、相手を意識して聞けたりできるように、伝え合いについての実態を教員間で共通理解を図り、日々の関わりや指導につなげる。 ・児童生徒からの発信を肯定的に受け止め、伝えやすい雰囲気をつくる。	○児童生徒の変容前と変容後の具体的な姿 ★小学部教職員による学期末ごとの話し合いより(追記)伝え合う場の設定を通して、「伝える」「受け止める」の変容をみる ・日々の学習において、伝え合う場の設定や、考える時間をしっかり持つことで、自分の思いを伝えられる姿が増えた。 ・友達の発表を聞き、拍手したり共感する言葉を返したりする姿が見られた。	A	13%	72%	2%	0%	13%	A	○全校行事で、日々の学習成果を生き生きと発表できていた。 ◆今後も、伝え合いについての取り組みを学部内で話し合っていく。
	高等部	○自分の気持ちを言葉等で伝えと共に、相手の意見を聞いたり、周りの様子を見たりしながら行動する力を付ける。	・発言する前に内容について一旦考え、言葉にするように伝える。 ・生徒同士で伝え合う時間を設ける。 ・気になる発言があった場合はできるだけその時に伝えて適切な発言ができるように声かけしていく。	○生徒の変容 ★高等部教職員アンケートの実施による「よい」「向上した」「できた」の割合(A80%以上、B60%以上、C40%以上、D39%以下) →A ・年度末の高等部教職員アンケートの結果 A ○できた 59% △まあまあできた 36% (計 95%) ×できなかった 5% ・全教職員の年度末アンケートの結果 肯定的評価86%	B	11%	75%	9%	0%	5%	A	○生徒や教員との人間関係ができてきたことで、意見を聞いたり、周りの様子を見たりできていた。 ○合同学習の場面でも、生徒同士の話し合いを中心に展開できた。 ○お互いに意見を言ったり、聞いたりすることが出来ることが増えてきた。 ◆「仲良くなりたい」と思っているが、どう表現してよいか、どのように接するのが良いのかを模索している様子が見られ、気持ちを表す言葉を知らないと感じることが多々ある。 ◆語彙を増やせるような取り組みができることよい。 ◆引き続き気になる発言や行動があったときは、その時に伝えていけるように声かけをしていく。
	舎務部・寄宿舎	○自分の気持ちを相手に伝えたり、相手の気持ちを受け入れたりする力をつける。	・「棟会」や「お話週間」「終礼」などの話し合いの場や表現する場面を設定する。 ・舎生の意見を積極的に求め、その意見を尊重し認めることを心がけて接する。	○生徒の変容 ★指導員で統一した記録や生徒アンケートによる ・80%の生徒がアンケートでは以前に比べて思いや気持ちを伝えることが増えた。相手の気持ちや思いを受け入れることはすべての生徒が以前より増えたと回答した。 ・指導員の記録から、取り組みを通じて自分の言葉で伝えることはかなりできるようになった生徒が増えたことがうかがわれる。	B	13%	75%	2%	0%	11%	A	○日々の生活記録、学期毎のお話週間、舎生を語る会等で舎生の姿や変容、支援方法について職員間で共通理解を図ることができた。記入した記録は、ネットワークに保存され高等部教職員も確認でき、高等部と連携を強化することにつながった。また、保護者との面談時にも効果的に活用できた。 ◆相手の話を聞く姿勢や態度は意識できるようになってきたが、相手の思いや気持ちを汲み取ることは、生徒によっては難しいことがあり、継続した支援や指導が必要である。
	人権教育	○人権意識を高め、寛容な心で多様な意見を受け止め、ともに考え伝え合い行動する教職員集団をめざす。	・人権意識に関するアンケート結果での気づきや教職員研修会での学び、人権標語などでの意識づけをとおして、日頃の人権意識を高める。	○教職員への人権意識に関するアンケートの実施 →○ ○教職員研修会を年間3回開催 →○ ○教職員向けの人権標語の作成 →○ ★実績 ★学校運営の評価アンケートによる肯定的評価75%以上 →○96% ・人権意識に関するアンケート結果での気づきの共有、教職員研修会での新たな学び、人権標語での意識づけをとおして、日頃の人権意識を高めることができた。	B	21%	75%	2%	0%	2%	A	○定期的な研修会や人権標語の作成、アンケート内容の周知などをとおして、人権意識が高まる学びや意識づけにつながった。 ◆引き続き、人権意識を高めるための取組を継続していく。 ◆子どもに対する言葉かけは、肯定的な言葉かけが意識できるよう取組を進めていく。
					11%	78%	4%	0%	7%			
					4%	84%	4%	0%	7%			
					4%	73%	4%	0%	18%			
					13%	80%	7%	0%	0%			

担当	重点目標	具体的方策(手立て)	評価方法・指標(規準) ・年度末の結果	中間自己評価	年度末評価アンケートより(%)					年度末自己評価	年度末評価 意見：○良い点 ◆改善点・改善策	
					中間評価アンケートより(%)							
					1	2	3	4	5			
①を支える基盤	子ども支援部	○自他を認め合い、共に活動に取り組もうとする児童生徒を育成する。	・各学級で自分や友だちの良さに気づくための視点を意識していく取組を行う。 ・学校生活全般(学習活動、行事、全校特活、児童生徒会活動等)で、「キラリいわみ」の取組をすすめる。(教職員:児童生徒へ。児童生徒:自分へ、仲間へ) ・仲間の前で、お互いの良さを認め合う場を設定する。	○教職員向けにキラリの日(月末)を設定 →○ ○児童生徒向けに行事後の振り返りでキラリを記入 →○ ○キラリの成果を各学部集会等で伝える場の設定 →△各学級で設定 ★実績 ★児童生徒向け、教職員向けのキラリアンケートによる肯定的意見80% →○ 児童生徒86.7%、教職員85.7% ★児童生徒同士のキラリ星の数の増加(昨年度比)、記入内容の質の向上 →児童生徒だけの増加は把握できなかった。全体で昨年度より1.5~2倍に増加。質の向上については今後の課題 ・今年度のキラリ星は前期は207個、後期は161個(1月18日現在)	A	34%	66%	0%	0%	0%	A	○年間を通して、キラリの活動に対する肯定的意見が90%以上あり、全体の協力を得て実施ができた。 ○学期ごとにキラリの成果を各児童生徒に渡し、学級単位での振り返りにおいて、実態に応じて活用してもらうことができた。 ◆キラリの成果を児童生徒で共有することに課題が残った。キラリの成果を共有する場を、学期終わりや行事後に実施できるように各学部や行事担当者との連携する等の工夫が必要。 ◆記入内容の質の向上については、客観的に判断することが難しかった。今後、取り組みを継続するなら、キラリの数の増加よりも、友だちのさりげない行動を肯定的な見方でとらえる「きらり」に着目し、その児童生徒の実態に合わせた評価の伝え等の工夫が必要。この取り組みの目標が「自他を認め合う」ことを再度、確認していく必要がある。
	教務部	○個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、児童生徒のICT機器の活用を促進する。	・個別最適な学びや協働的な学びについて、端末の活用例を周知する。 ・図工/美術、総合や作業学習等、共有して使えるテンプレートを作成し、試行、改善していく。 ・端末の利活用促進について話し合う時間を設定する。	○活用例の周知 ★学期に1回 →○ ・授業改善シートをもとに周知した。 ○共有テンプレートの作成 ★2つ以上 →○ ・共有テンプレートを作成し職員会で周知した(図工美術、総合、作業日誌(木工製菓))。 ・クラスルーム(石見養護学校)やCanvaのプロジェクト>共通教材(教務)にテンプレートあり。 ○話し合う時間の設定(教科検討会での検討事項の周知) ★学期各1回 →○ ○教職員対象に学期毎にアンケートを実施 →○ ★児童生徒の端末活用が増加:教科毎の使用率の増加(6月にアンケートを実施して増加率を決定) (追記)目標値を70%とする ・教職員対象の「児童生徒の端末活用アンケート」結果 全教科)5月57.5% →8月61.8% →12月66.1% 教員)5月64%(16/25人) →8月67%(20/30人) →12月87%(26/31人)	C	49%	49%	0%	0%	2%	A	2学期から、ICTミニ研修会を実施し、教職員の端末活用の促進を図った。 ○授業での児童生徒の端末活用が広がった。 ○教科や児童生徒の実態に応じて活用しにくい様子が見られる。教科や子どもをイメージしたICT研修会等を実施し、さらに活用が広がるように工夫していく。 ◆保護者アンケートの項目が、図書館利用とIpad活用が一緒になっているので、別にしたほうがよいのではないか。
	事務室	○安心安全な教育環境や教職員にとって働きやすい職場の整備・改善を促進する。	・自主的な定期点検や教職員による安全点検のほか、日常の教職員の気づきを受けて環境改善や整備を実施する。 ・教職員の要望を受け、必要なところから労働環境の改善に努める。 ・照明設備をLED化し、照度を高め、教育環境、教職員の執務環境を改善する。	○教育環境や執務環境の改善 ★LED化事業の施工実績 →年度内100%達成 ★学校運営の評価アンケートによる肯定的評価80%以上 →○	B	45%	55%	0%	0%	0%	A	学校の環境整備に取り組んだ。建物や設備自体が古く、改修・改善が難しいところもあったが、日々の教育・教職員の業務に支障のないよう対応できた。 OLED化については、今年度予算措置があり、大きく進めることができた。 ◆寄宿舎のLED化が、今年度は未達成。順次、電球の替え時に検討をしていく。
	研究部	○校内研究(授業づくりおよび授業研究等)を通して、共に学び合う機会の充実を図る。	・題材設定のポイントや支援を明確にした授業実践の促進 ・授業実践の前後でのポイントや学びの発信 ・要請訪問での授業づくりの学びの機会の設定 ・所属学部、他学部の授業実践の参観の調整(ICT機器の活用含む) ・児童生徒、障害についての理解を深める研修の実施	○校内研究の取組が授業づくりの学びにつながった。 ★研究グループ後のアンケートによる満足度80%以上 →○ ・研究部の取り組みが学びになったかのアンケート(81%回答):すべてが「とても学びになった」「学びになった」の回答であった。100% ・全教職員の年度末アンケートの結果 肯定的評価100%	B	38%	62%	0%	0%	0%	A	研究グループ会での授業づくり、他グループの公開授業参観、要請訪問での授業研究等を通して、学び合うことができた。 ○授業を参観しあうことが大切だと感じたり、たくさんの他グループの授業を参観できてよかったの意見があった。授業を参観しやすいように教務の先生に協力していただきよかった。来年度も調整し、授業を参観をしい、ともに学んでいけるとよい。 ◆授業構想シートの整理をするをよい。 ◆先生方の興味関心を年度初めに確認しておき、研修(オンラインでの受講も含み)の案内やお勧めができるとよい。
②専門性の向上	保健部	○安全や健康に関する正しい知識を身につけるための保健教育を充実させる。	・心身の健康や食に関する情報等を「ほけんだより」や「食育だより」、壁面指導で発信する。 ・健康課題を把握し、心の健康や性に関する指導、生活習慣等に関する授業を実施する。	○おたよりや掲示等による保健及び食育に関する情報発信 ★月1回 →○ ・「ほけんだより」「食育だより」を発行したり、WEBページに掲載したりして、必要な情報をしっかり発信することができた。 ○学級と連携した保健教育の実施 ★年3回程度 →○ 年度内に6回実施予定(5回済) ・児童生徒の健康課題や学級のニーズを把握し、学級と連携を取りながら単年や保健体育等の教科で「歯磨き指導」「食に関する指導」「がん教育」等、健康教育に関する授業を行った。	B	32%	68%	0%	0%	0%	A	○今年度より、児童生徒個々の健康状態やそれに関する資料等を「もりもり健康ファイル」の1冊にまとめることで、児童生徒の健康状態を共有し、保護者と連携がとれるように努めている。 ◆「ほけんだより」や「食育だより」の学級での活用の仕方(ICT活用等)を検討している。 ◆学部と連携し、児童生徒の健康課題に対するさらなる支援方法を検討・共有し、一貫した指導を行う。
					11%	76%	4%	0%	9%			
					11%	87%	2%	0%	0%			
						18%	64%	0%	0%	18%		

担当	重点目標	具体的方策（手立て）	評価方法・指標（規準） ・年度末の結果	中間自己評価	年度末評価アンケートより(%)					年度末自己評価	年度末評価 意見：○良い点 ◆改善点・改善策
					中間評価アンケートより(%)						
					1	2	3	4	5		
*発信する 総務部	○保護者・地域へ、本校の教育活動を積極的に発信する。	・情報を発信するため、WEBページの更新回数を増やす。 ・WEBページのQRコードや更新情報のお知らせをする。	○WEBページ更新計画を作成し実施 ★更新計画実施率80%以上 →○ ・WEBページ更新計画を作成○、実施率8割弱。 ・1学期27件、2学期37件、3学期2件(1/15現在)で児童生徒の学校生活の様子を続々更新中。更新計画外の掲載が多く、WEB発信する意識が高まった。 ○保護者へ連絡帳にて「更新記事情報+QRコード」を配布 ★5月～3月 月1回程度 →○ ○地域へ本校WEBページのQRコードの公民館便りへの掲載・チラシの掲示依頼 ★公民館（中野、井原、矢上）に依頼できたか 3/3達成 →○ 3公民館への掲示○、PTA関係資料等への掲載○。	A	60%	40%	0%	0%	0%	A	○webページの更新はもとよりQRコードを保護者連絡帳に貼る等効果的な取組をしている、等。 ◆今年度の実績をもとに学部・分掌等と更新計画の検討して作成し、掲示することで皆で意識できるようにする。 ◆校内へのPR（更新しました掲示や記事の掲示等）や地域の方に更に見ていただくための手立てを検討（チラシ掲示場所を広げる等）する。
					31%	69%	0%	0%	0%		
進路指導部	○生徒や保護者のニーズを把握し、就労やサービスにかかわる情報などについて、積極的に情報発信を行う。	・生徒、保護者のニーズを把握するためにアンケートを実施し、それらに合った進路情報を発信する。（学部便り内進路コーナー、HP、進路掲示板、みらいカフェなどでの発信） ・みらいカフェ（生徒版、保護者版）を実施し、個のケースに応じた相談を行う。	○アンケートの実施 ★保護者：年1回実施、生徒：年2回実施 →○ ○学部便りに進路コーナーの掲載 ★学期に2回程度 →○ ○みらいカフェ（生徒版・保護者版）の実施 ★学期に1回程度 →○ 保護者：学期に1回 生徒：1～2回	C	34%	64%	0%	0%	2%	A	○アンケートで学がった保護者の知りたい情報をもとに、進路コーナーやみらいカフェ等で、情報発信することができた。 ○HP掲載：13記事、進路コーナー掲載：学期に1～2回、進路掲示板の活用ができた。 ○みらいカフェでは、個別に相談に応じ、必要な情報を提供することができた。今後も必要に応じて、個別相談+αな取り組みを入れていく。 ◆学部だより内の掲載ではなく、定期的に進路だよりを発行する。
					20%	76%	4%	0%	0%		

<地域連携にかかる評価指標について>

○地域連携をすすめる体制の構築について

- ★学校運営の評価アンケートによる肯定的評価80%以上 →A
- <保護者アンケートより 右表参照>
- 6 地域での地域との学習 87%
- 15 地域との連携 94%

参考：地域連携にかかる教職員アンケートより

1 今年度地域のヒト・モノ・コトを活用した学習を実施してみたいか。	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった
	15	7	0	0
2 地域と連携した活動は生徒にとって有益であると思いますか。	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
	15	7	0	0
3 来年度も地域と連携した学習活動をしていきたいと思いませんか。	はい	いいえ		
	22	0		

○県教委実施の生徒対象アンケート

- ★中間評価<年度末評価 中間評価は、今年度実施なし
- ★「はい」と回答した者 70%以上 →73% A

アンケートを独自に変更

質問		はい	いいえ	計	R5	R4	R3
1 これからも「地域の人」と学習したいですか。	小中学部	5	0	5	100%		
	高等部	8	3	11	73%	75%	63%
2 今後地域の人と一緒に何かできることややりたいことがありますか。	小中学部						
	高等部	5	6	11			

<特別支援教育センター的機能の評価指標について>

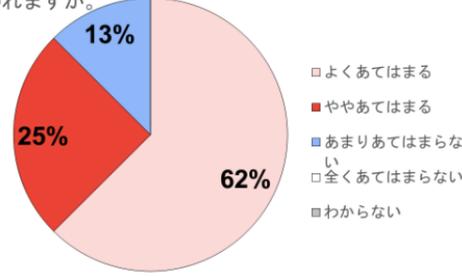
○地域からの要望に応えるための校内体制の構築について

- ★巡回の希望を断った回数 0回 →0回 A

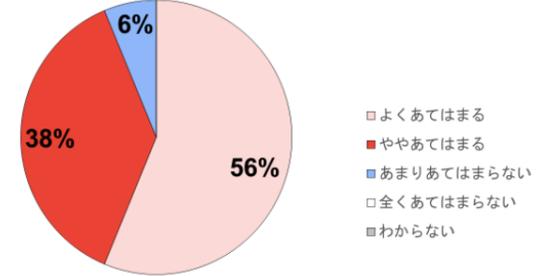
○地域からのニーズの把握について

- ★邑智郡内の各教委や巡回先からの評価の把握 肯定的評価80%以上 →今年度アンケート等では、実施せず。苦情等はなし。

6 地域に積極的に出かけたり、学習の題材として地域のことを取り入れたりする学習を実施できていると思われますか。



15 学校は、地域や関係機関との連携・協力がなされていると思われますか。



(参考)

県教委実施の生徒対象アンケート		R4年度アンケート結果		R5年度	
質問	回答者数(A)	(A)のうち「はい」と回答した者数	(A)のうち「はい」と回答した者数		
① 「地域を活用した学習にもっと取り組みたい」「地域の人ともっとかわりたいたい」と感じますか	小学部				
	中学部				
	高等部	4	3	75%	70%以上
参考(R3年度)	高等部	8	5	63%	